

第5次県有林管理計画【計画期間：2026（令和8）年度～2030（令和12）年度】

県有林の概要

- 県有林は、明治44年3月11日に御下賜された御料地が基となっており、面積は158,219haで県土の35%、県森林面積の46%を占める。
- 平成15年にF S C森林管理認証を取得し、第三者機関による審査のもと、国際基準に適合した持続可能な森林管理を推進
- 県有林の86%が保安林に指定され、県土の保全や水源涵養等の公益的機能を発揮
- 同時に、46%が自然公園に指定されるとともに、富士山世界遺産認定区域の32%が県有林で構成されるなど、優れた自然環境と文化的価値を提供

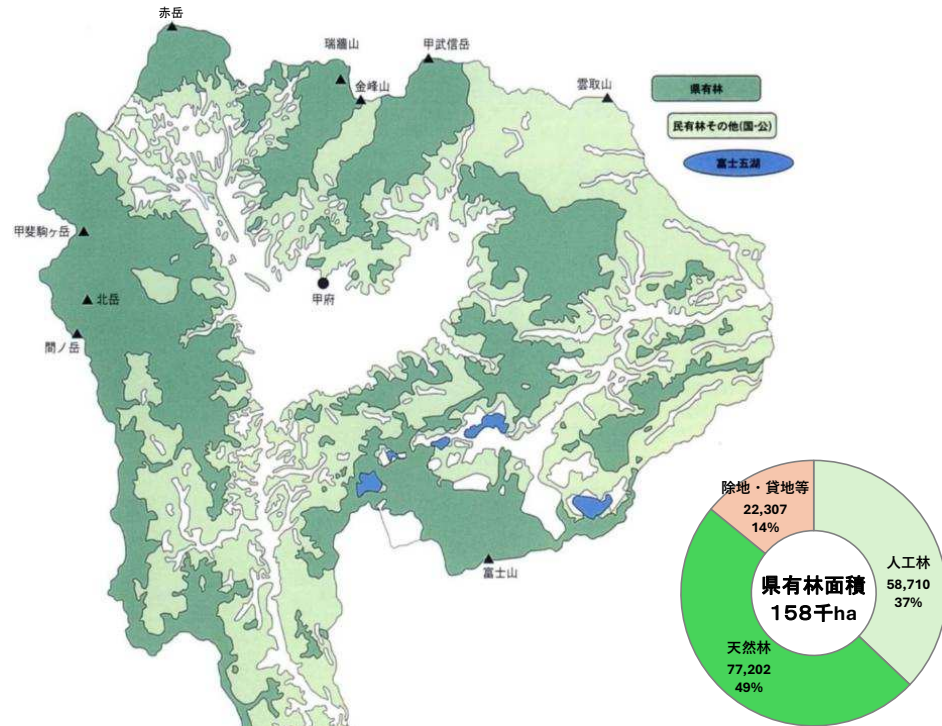


図-1 県有林位置図と人天別の内訳

県有林管理計画とは

- 県有林野管理規程に基づき、5年毎に樹立する県有林の伐採や造林、保育等に関する実施計画
- 計画期間は、令和8年度～12年度の5年間の計画（今期から5年間の計画に変更）
- 計画事項は、管理の基本方針、林分ごとの施業基準、伐採、造林の事業量等

資源構成

- 県有林のうち貸地や無立木地などを除いた林地（13万5千ha）について公益的機能の発揮を重視する「公益林」と持続的な木材生産を重視する「経済林」に区分
- 原則、標高1,600m以上の奥地や路網の到達が困難な人工林は、針広混交林に誘導し、公益的機能の発揮を図る「公益移行林」に設定
- 経済林は、カラマツが全体の35%を占め、次いで、ヒノキ(22%)、広葉樹(17%)、アカマツの順で、木材として利用可能な56年生を超える林分が62%を占める。
- 資源の充実に合わせて伐採量を増加させており、第4次管理計画（R3～R7）における実績では、第2次経営計画（S56～S60）以来の40万㎡超となる見込み。

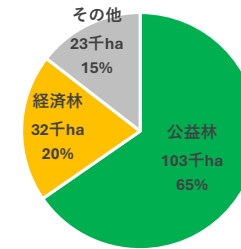


図-2 公益林と経済林の構成

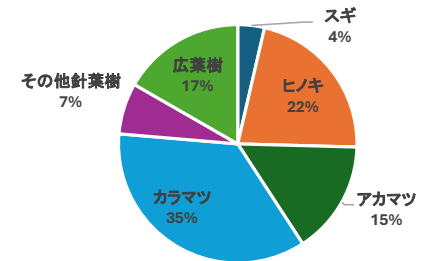


図-3 経済林の樹種内訳

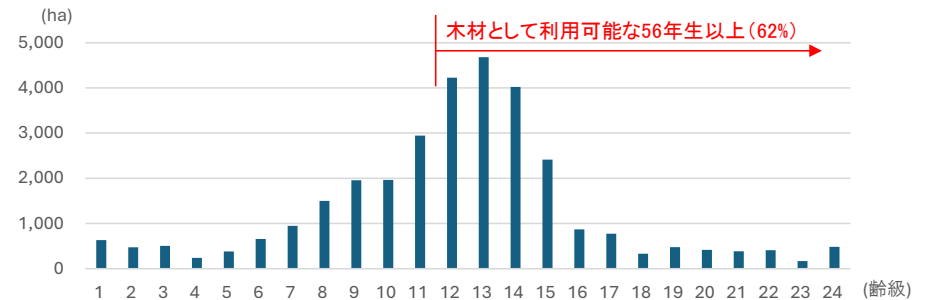


図-4 経済林の年齢別面積

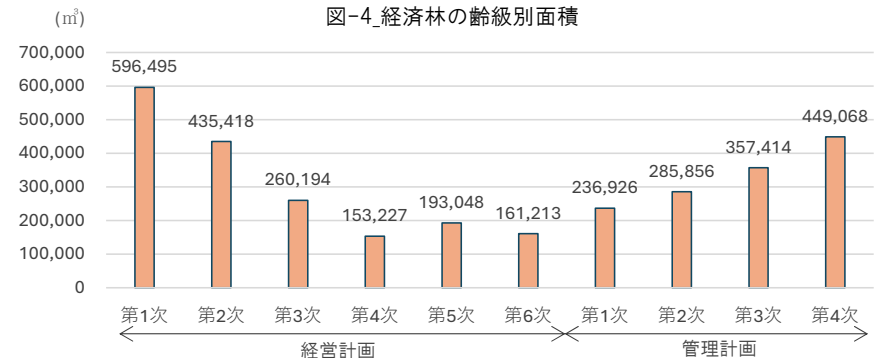


図-5 各計画期間別の伐採量

第5次県有林管理計画の概要【計画期間：2026（令和8）年度～2030（令和12）年度】

《基本方針》

気候変動に伴う豪雨の増加やネイチャーポジティブの実現に向けた動きなども踏まえ、持続可能な社会への転換に向け、国際基準に基づき「環境・社会・経済」の3つの側面でバランスが取れた森林管理を推進するとともに、森林資源の持続的な利用により林業の発展に寄与することを基本方針とします。

① 国際基準に基づく森林管理の推進

重点取組事項

<災害防止機能等の強化>

台風の大型化や記録的な豪雨等の発生を踏まえ、急傾斜地では土砂の流出を防止するため、また水源上流域では良質で豊かな水を育むため、針広混交林へ誘導するなど、安全・安心な生活を守る森林管理を推進

<生物多様性を高める森林管理>

自然公園など自然植生を保存すべき地域の周辺で、保護樹帯を設置するなど生態系の保全に配慮した施業を行うほか、生物の生息環境となる溪畔林の保全、皆伐地での保残帯の設置や広葉樹の育成等、生物多様性を高める森林管理を推進

これらの取組により、クマなどの野生動物の生息環境の保全に寄与



保全している溪畔林

<観光・レクリエーション利用の推進>

健康意識の高まりや国内旅行の回復を踏まえ、景観・眺望・癒やしなど県有林の価値を最大限向上させ、観光・教育・健康分野と連携した森林体験プログラムや、アウトドアスポーツを楽しむ場を提供



眺望箇所では風景を楽しむ登山者

《数値目標》

針広混交林への誘導	2,000ha	(第4次計画前期の100%)
森林公園等の利用者数	843千人	(令和12年度末、第4次計画前期の100%)

② 林業の持続的かつ健全な発展への寄与

重点取組事項

<森林資源の循環利用の推進>

利用期を迎えた人工林から木材を安定的に供給し、着実に再造林・保育を実施することで森林資源の循環利用を推進

また、これらによって県内の林業・木材産業事業者を育成



出荷を待つFSC認証材（ヒノキ）

<生産性の高い施業の推進>

先進技術の実証の場として県有林を活用するとともに、更なる機械化とICTを活用したスマート林業により生産性の高い施業を推進

また、伐採から再造林までを連続して行う「一貫作業システム」や、低密度植栽、下刈回数削減等を実践し、その波及により県内林業の低コスト化に寄与



ラジコン式機械による地拵の実証

<新たな価値の創出とカーボン・ニュートラルへの貢献>

これまでの県有林の管理実績を基にJ-クレジットを新たに創出し、その販売収益を活用して森林整備を拡充

《数値目標》

伐採量	42万5千m ³	(第4次計画前期の100%)
	(1年度当たり8万5千m ³ = 主伐7万m ³ + 間伐1万5千m ³)	
新たなJ-クレジット創出	128万t-co ²	(令和8～15年度の創出見込累計)